

聴覚障がい青少年国際キャンプ (H. H. キャンプ)

2005年7月29日～8月6日 in マレーシア

記念すべき30回目を迎えた2005年 H. H. (Hard Hearing) キャンプは、マレーシアYMCAにて盛大に開催されました。日本、マレーシア、シンガポール、香港、台北、インド、フィリピンのYMCAから総勢146名のキャンパーが集い、様々な活動を共にし、交流と学びを深めました。日本からは、キャンパー、ボランティア、スタッフを含めた19名が参加しました。



説明などの時には、英語⇒英語手話⇒日本語手話⇒日本語の順番で通訳が行われます。

ひとりぼっちじゃないよ

私は、アジアの文化に慣れてみたい、アジアにいる同じ聴こえない仲間に出会ってみたいという思いから、初めてこのキャンプに参加させていただきました。

国際手話、マレーシア手話等何も知らずに参加し、初めは言葉が通じることができなくて活動することができなかった。しかし、キャンプ中にこんなことがありました。グループにまだ慣れていない時、スポンが濡れて一人困っている様子の女性が目にとまりました。初めはどう話しかけたらよいか迷い、戸惑いました。思い切って勇気を出し、私なりにジェスチャー

やそれまでに覚えた手話で話しかけてみました。そして、私の友人からドライヤーを借り、問題を解決することができました。その時の彼女の笑顔を見て、自分までも嬉しくなりました。彼女が自分の国の友人に、私のことを、"you are so nice"と紹介してくれました。胸が熱くなり、忘れません。聴こえない同じ仲間が、こんなにたくさんいる。分かり合いたいという仲間がいる。このこと

言葉が通っても、みんなが私に話しかけてくれ、伝わるまでジェスチャーや筆談、手話で話をしてくれました。伝えたい、分かり合いたい、一緒に楽しみたい

言葉が通っても、みんなが私に話しかけてくれ、伝わるまでジェスチャーや筆談、手話で話をしてくれました。伝えたい、分かり合いたい、一緒に楽しみたい

言葉が通っても、みんなが私に話しかけてくれ、伝わるまでジェスチャーや筆談、手話で話をしてくれました。伝えたい、分かり合いたい、一緒に楽しみたい



六甲山YMCAユースボランティアリーダーの矢崎菜央子さん

池田所長も認める、木工クラフトの達人。"もともと図工や美術が好きだったので、YMCAでの活動の中で多く触れるうちにのめりこんでいきました。そうおっ

先輩のリーダーが卒業した時には一人になることに大きな不安を感じたそうです。"そんな思いをOGの方に相談したんです。そうしたら別にあな

たは一人ではないよ"といっ



六甲山YMCAユースボランティアリーダー 矢崎菜央子さん

これからリーダーの数を増やし活動を活性化させたい

を伺いました。彼女は現在、兵庫県にある大学の2年生で、1年生の時に受講したボランティア論がきっかけでボランティア活動に興味を持ち、教授の紹介で六甲山YMCAに推薦を受けたのが活動の始まりだそうです。六甲山YMCAのリーダーとしての活動は、主にキャンプ場の整備や、六甲山YMCAを訪れる家族と共に野外料理やキャンプファイヤー、クラフトなどのプログラムを行うことです。その中でも特に、矢崎さんは六甲山YMCAの

ゆるい矢崎さんの作品は六甲山YMCA内の看板として多く目にすることがあります。現在六甲山YMCAで一年を通して活動をしているリーダーは矢崎さんのみで、昨年、

て下さって、その言葉にすく救われました。また、YMCAでの活動を続けられる大きな原動力は人との出会いにあるとおっしゃいます。"昨年キャンプで出会った子ども

が、来年もまた来ると言ってくれて、今年再会できるのがすごく楽しみでした。また、保護者の方ともお話をする機会が多くあり、学ぶことが多いです。

スリランカ災害地支援報告②

「心がけ」は心に寄り添うこと

4泊5日のキャンプ。88名の子どもたち。その子どもたちのほとんどが津波被災は内戦による被害を受け、心の奥底に恐怖心を持っていました。表情の少ない子ども、夜に泣き出す子ども...

「何のために私たちはこのキャンプに参加しているのか。様々な疑問や不安、そして期待を胸にキャンプに臨みました。キャンププログラムは「希望」、「やすらぎ」、「民族融和」をキーワードにして、また子どもたちがピースメーカーとして地域のリーダーになつてほしいとの願いを込めて実施されました。

最後に「これからの活動について聞きました。"やはり、リーダーの数を増やしていきたいです。仲間がいればより良いアイデアが生まれ、より活発な活動ができると思います。そしてリーダーが集まると際には施設内の整備や開発を積極的にやりたいです。"

名札作りでは、民族の違う子どもたちがそれぞれの言語で互いの名前を書き合いました。七夕飾りでは将来の夢を語り合いました。初めは緊張気味だった子どもたちも次第にリーダーに打ち解け、共に思いっきり遊び、笑い、友情を深めました。そしてこの間に築かれた「きずな」は「希望」を生み出しました。

みんなの願いが集まった七夕飾りの前で、一人ひとりの願いが大きな形になりました。



日本の私たちにできること。それは子どもたちの心

財団法人日本宝くじ協会から テントの寄贈



大阪YMCAに財団法人日本宝くじ協会から「集会用テント」を寄贈いただきました。「キャラクター・ディベロップメント」のロゴが入ったテントは、5つの拠点(枚方YMCA、徳島YMCA、阿南国際海洋センター、六甲山YMCA、岬子高原センター)で、お祭りやスポーツ大会などの行事、またキャンプ場のプログラム現場で活用させていただいています。

第11回チャリティーラン2005

11月23日(祝)

ランナー・ボランティアの参加をお待ちしております!

ボランティアの力が集結する大阪YMCA最大のイベントです。このプログラムは、心身に障がいのある子どもたちのための活動支援募金を目的としたチャリティーマラソン大会です。みなさまのご参加をお待ちしています!

日時 11月23日(祝) 9:00~12:00 雨天決行
会場 大阪府営浜寺公園
問合せ・申込み 大阪YMCA国際・社会奉仕室 TEL 06(6441)0894
E-mail info@osakaymca.or.jp

ハリケーン・カトリーナ被災者 緊急支援募金のご報告

募金期間 2005年9月12日~9月30日

募金総額 ¥122,437円

2005年8月29日にアメリカ南部を襲ったハリケーン・カトリーナ被災者のための緊急募金活動を実施し、多くの方々にご協力いただきました。この募金は米国YMCA同盟を通じ、被災者支援に用いさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

に寄り添うことでした。そして彼等、彼女等を見て、折り返すことが今、私たちに求められています。

※スリランカ災害地支援報告は大阪青年10月号と12月号を合わせて全3回です。